

1 学校教育目標

「生きる力」と国際感覚を身に付けた児童生徒の育成

「生きる力」とは、未来に生きる子供たちが学びの先に身に付ける「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性など」という3つの資質・能力ととらえる。

また、「国際感覚」とは、「日本文化を踏まえて異文化と向き合い、人類共通の問題解決に参画する態度を身に付ける。」を中学生で育てたい力とし、小学部では各低・中・高学年に応じた目標を設定する。

学びのその先に「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を尊重して、本校では、日本人としてのよさを伸ばしながらグローバル化する現代社会に対応できる「生きる力」と「国際感覚」を身に付けさせる教育を推進する。

令和7年度では、特に中教審指針を受け、**アウトプットを重視する令和の日本型教育を意識**して、研究指定を受けた国際理解教育の実践を目指すとする。

2 目指す子供像・学校像・教職員像

(1) 子供像：(知) かしこい子 (徳) やさしい子 (体) たくましい子 (世界) ひろめる子

○かしこい子 自ら考え、主体的に学習し、友だちと学び合い、自分の思いや考えを表現できる子。

○やさしい子 一人一人の違いを理解し、相手の気持ちを考え大切にできる。困難にくじけない子。

○たくましい子 元気に挨拶をし、運動を楽しむ心身ともに健康な子。安全な生活を実践する子。

○ひろめる子 日本文化を尊重し異文化理解できる。自分の考えを持った上で他の考えを聴ける子。

(2) 学校像：「喜んで登校、満足して下校」～子供一人一人を大切に作る学校～「ハンブルグプライド」

未来に生きる子供たちの一人一人のよさや可能性を高め、子ども自身がハンブルグ日本人学校で学んでよかったといえる学校（「ハンブルグプライド」が持てるように）を目指す。また、子供の変容や成長を認め、保護者・理事会・ハンブルグ日本国総領事館・日本人会及び現地関係諸機関、交流学校との連携を深めることを通して「子供一人一人を大切に作る」学校創りを進める。

(3) 教職員像：共に動き働く教職員 学び続ける教職員 俯瞰できる教職員 「チーム・ハンブルグ」

教職員が、その個性と資質・能力を十分に発揮し、チームとしての組織的・計画的に質の高い教育活動を展開する。そのため、教職員が教育に情熱を持ち、共働き共に指導力を高め、子供たちに愛情をもってグローバルな人間性豊かな教職員組織を確立する。

児童生徒に、規範意識を高め規則正しい学校生活を過ごさせるために、教職員は率先して規範意識（職務規定、時間等）を守り子供たちの模範になるよう心掛ける。

3 令和7年度の日本人学校スローガン 子供たちにも分かりやすい学校の目標として設定する。

「笑顔いっぱい 夢いっぱい」

園児、児童生徒一人一人を大切に作る学校を目指して、理事会・日本人社会・保護者と信頼関係（**オール・ハンブルグ**）を構築し、夢に向かって、笑顔で楽しい学校を創る。

4 健全な児童生徒の育成のために行う主な手立て（重点施策）

【(知)かしこい子】 目標：児童生徒主体の授業に改善する。

(1) 児童生徒の確かな学力の向上

- 一斉授業からの脱却 教師が教える指導から、子供同士が学び合い思いをつなぎ合う授業に改善する。
- 学習課題、授業展開の工夫 課題を明確にし、評価の視点を伝える。授業では友達同士の学び合いをより進めるため、今年度は「聴く姿勢」を重視し、友だちに「教えて」と尋ねる雰囲気づくりを行う。

(2) ICT教育の充実

- GIGA スクール構想に則り、ICT 教材を多用する多角的な授業展開を行う。ICT 端末(タブレット)を活用した授業に取り組む。Wi-Fi 環境や一人一台端末の環境整備を補助金を申請し充実させる。
- 児童生徒が発達段階に応じ ICT 機器の基本操作や情報リテラシーを学び活用できるようにする。

(3) 読書活動の推進

- 小学部低・中学年に図書時間を設け、読書に慣れ親しませる。
- 本を紹介する機会を設け、より多くの児童生徒が素晴らしい本に出合える機会を増やす。
- 情報活用にネット検索だけではなく、各種辞書を合わせて用いて正しい日本語に触れさせる。

(4) 個に応じた指導を柔軟に実施する。

- 進学・転出に備えて多様な状況に合わせて対応できるよう学習進度を早めることを心掛ける。
- 個別最適な学びを進め、児童生徒一人一人のニーズに応じたきめ細かい指導を行う。特に転入生の未履修内容を把握し、適切な補充指導をする。

【(徳)やさしい子】 目標：児童生徒が心身ともに安全で、安心できる温かい学級経営を行う。

(5) 学級経営の充実

- 一人一人が落ち着いて楽しい学校生活が送れるように学級経営の充実を図る。自他を大切にし、相手の気持ちを考え、誰にでもやさしく接する土壌をつくる。
- 授業だけでなく日ごろの学校生活の中で望ましい言語環境を構築し、全教職員で子供に関わる。
- 縦割り活動や学年を超えた活動で、異学年交流を図り多様な人間関係の醸成を図る。

(6) 心の教育の充実（特別な教科道徳の取り組み）

- 道徳教育は、学習指導要領の趣旨を踏まえ学校の教育活動全体を通じて行う。
 - ・小学部 気持ちのよいあいさつなど人間性を豊かにし、集団や社会のきまりを守る規範意識を育てる。
 - ・中学部 リーダーとしての自覚を養い、社会の一員としての主体的な参画を意識づける。
- 幼稚部、小学部、中学部が併設されている良さを生かし、幼小中連携を密にし、一体となり指導する。
- 在外生活を鑑み、少しの困難にくじけず努力する強い心を育成する。

(7) 子供の変化を見取る教育相談（進路指導）

- 学校生活の不安を解消するため、子供の小さな変化を見逃さず、教育相談を必要に応じて行う。
- 生き方指導としての進路指導を、全学年において計画的、継続的に実施する。
- 児童生徒や保護者に必要に応じ、進路についてオンラインで日本から情報の収集や提供を行う。

(8) 生活指導

- 規範意識を家庭と連携しながら育て、国際社会に生きる日本人としての心の育成に努める。
- 生活指導は保護者と連絡を密にし共に協力し合う。教職員は共通理解を図り共通実践に努める。
 - ・毎月、月初めに全児童生徒対象に「いじめアンケート」をとり、いじめ未然防止に努める。
 - ・保護者には Teams や HP、学校だよりや学級通信を活用して、情報発信及び収集に努める。
 - ・児童生徒の問題は、打ち合わせや部会で随時確認し、全教職員で対応する。

【(体) たくましい子】 目標：児童生徒が基本的な生活習慣を身に付け、元気にあいさつできる子を育成する。

(9) 心身ともに健やかでたくましい子を育てる。

- 基本的な生活習慣の確立
 - ・元気にあいさつができる児童生徒を育て、マナーアップの向上を学校生活全体で育成する。
 - ・園児、児童生徒一人一人が、自分の体を大切に心身ともに健康であるように見守る。
- 体力向上
 - ・各種運動を通して、園児、児童生徒の体力を高める学習や遊びを実践する。
 - ・運動の楽しさを味わえる体育授業を行い、縄跳び、持久走などの運動を学校生活に取り入れる。
- 食育の推進と、虫歯0を目標とした健康教育を全学年で取り組む。

(10) 安全・安心な学校づくり

- 安全に生活するため外部講師を招聘し、知識を身に付けて実践する子を育てる。
- 不法侵入者、テロ、火事や帰国後を想定した地震など、各種事故を想定した避難訓練の実施
 - ・児童生徒の通学方法を確認し、公共交通機関（HVV）の不慮の事案に備える。
 - ・毎月、校舎内外の安全点検を実施し、危険個所の発見と補修に努める。
- 教材・教具の安全な使い方をその都度指導し、遊具の使い方など共通理解を図る。

【(世界) ひろめる子】 目標：日本人としての誇りを醸成し、異文化理解を育成する。

(11) 日本文化の尊重と現地理解教育

- 我が国の歴史・文化・伝統を理解・尊重し、他者に「コミュニケーションをとろうとする意欲」「理解しようとする心」を育み、日本人としてのアイデンティティを育成しつつ実践する態度を養う。【国際感覚】
- 現地校やインターナショナルスクールとの交流で他国の児童生徒と触れ合い、ともに活動することで受け入れるとともに、日本の学習との違いを知り日本の学習をより理解する意欲を持つ。【交流学习】
- 現地社会や文化を知るための現地見学を積極的に取り入れ、日本との違いを知る。【現地理解】

(12) 外国語教育の充実

- 児童生徒の英会話、ドイツ語会話を発達段階に応じて知識・技能を指導する。
 - ・外国語担当教諭とネイティブスピーカーの現地教師との連携を深め指導法の改善工夫を図る。
 - ・積極的に外国語を使う場を設け、表現力や態度の向上を目指す。
- ネイティブスピーカーの現地採用教師による英語活動・授業時数
 - ・幼稚部 英語活動 全クラス週2時間（現地採用教師）
 - ・小学部1、2年生 英会話 週1時間（現地採用教師が指導、教科外教育活動として位置付ける）
 - ・小学部3、4年生 外国語活動 週1時間（派遣教師が指導、授業として位置付ける）
 - ・小学部5、6年生 英語授業 週2時間（派遣教員）、英会話 週1時間（現地採用教師、教科外教育活動）
 - ・中学部全学年 英語授業 週4時間（派遣教員）、英会話 週2時間（現地採用教師、教科外教育活動）

- ドイツ語会話授業
 - ・小1より中3までの全学年で 週2時間（教育課程時数に加えない教科外教育活動）

※ 英会話授業、ドイツ語会話授業等の教科外教育活動の設置が小学部高学年及び中学部7時間授業の設置理由の一つとなる。

(13) コミュニケーション力の育成

- 児童生徒主体の授業を行うことで、自分の考えを持ち、自分の思いを表現できる子を育成する。
 - ・児童生徒同士で学び合い、他の意見をしっかり聴くことで身に付ける。
 - ・他校（日本の学校、ドイツ国内の日本人学校）とのオンライン授業を推進する。
- 学校・学部内で学習発表の機会を設ける。

5 保護者への対応

(1) 開かれた学校を創る。

保護者アンケートをとり、保護者の意見を聞く機会を設ける。要望等についてはよく検討する。

- ・学習発表会については、土曜日に「モインフェスティバル」として実施する。
- ・放課後の活動（AG）については、教員が見守るなかで出来る範囲で実施する。

(2) 保護者との二者教育相談や児童生徒を交えた三者教育相談の機会を増やす。

(3) 公開授業週間を設け、保護者が幅広く授業を参観できる機会を設ける。

(4) 子どもファーストが原則ではあるが、学校への要望については、内容により理事会にも図りながら、教職員の職務遂行に影響が出ないように慎重に検討する。（学校教育推進における文部科学省指針より）